

明石新庁舎に助言を

来月にも有識者会議 防災や都市計画

老朽化で耐震性が不足する市役所の建て替えを検討している明石市は、新庁舎の位置などの意見を求める有識者会議を12月にも設ける方針を固めた。防災や街づくりの観点を踏まえた意見を求め、新たな市役所の建設地決定につなげる。

市によると、▽防災▽都市計画▽建築▽都市経営・都市政策——などの専門家5人程度でつくる予定で、人選を進めている。

現地(明石市中崎)建て替えのほか、市内主要駅のJ・R明石、西明石、大久保近くの候補地について検討。一つのテーマについて

1、2回会議を開く考えで、新庁舎の規模や機能に加え、約120億円とされる整備費の財源についても議論する。

市は、有識者会議のほか市議会、市議会の意見などを反映し、建て替え地などを盛り込んだ建設基本計画を策定する。

市によると、人口5万人以上の県内16市のうち、市役所が耐震不足にもかかわらず、具体的な建て替えや耐震改修の計画が決まっていけないのは明石市だけという。市は「丁寧な議論で建て替えのスケジュールを固めたい」としている。

糖尿病の予防 青照明で啓発

明石のクリニック

世界糖尿病デー(14日)

に合わせ、明石市大明石町のよこた内科クリニックは、予防啓発のシンボルカラーである青色で出入り口をライトアップしている。15日まで。

11月14日は糖尿病治療薬のインスリンを発見したカナダ人医師の誕生日で、2006年の国連総会で予防に取り組み日となり、各地でライトアップなどが行われている。

同クリニックは、J・R明石駅前の複合ビル「パピオスあかし」3階に今年1月に開業。出入り口の2か所に高さ約2メートルのLED(発光ダイオード)照明を設置した。6日から、夕方から

出入り口の脇に設置され、青く光るLED照明(明石市大明石町)



夜にかけて光らせており、糖尿病専門医の横田一樹院長(39)は「早めの受診で予防や早期発見につなげてほしい」と呼びかけている。